



つながる医療

不整脈について①

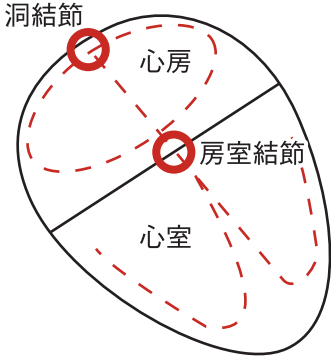
第一回 不整脈の概要と種類について

日本における不整脈の患者数は年々増加しています。不整脈というと漠然とした不安や恐怖を抱きがちですが、不整脈とは正常でない脈の総称であり、その重症度は種類により大きく異なります。不整脈には特定の治療を行う必要のない種類もある一方で、心不全や脳梗塞、死に至る危険なものもあります。今回は不整脈について、総合大雄会病院循環器内科の寺沢彰浩医師が解説します。

●不整脈とは？

心臓は安静時1分間に60回から80回規則正しく休まず拍動し、全身に血液を送っています。不整脈は、脈が異常に速くなったり（1分間に100回以上）、異常に遅くなったり（1分間に50回以下）、不規則になったりする病気です。

脈は、心臓の洞結節から発生した電気信号が心臓各所に伝わり、それに従って拍動することによって作られます。電気信号が作れなくなったり、異常に作られたり、正常に伝わらなくなると不整脈がおきます。



心臓の電気信号は洞結節で作られ、心房→心室と伝わることで脈が作られます（赤点線）。

不整脈といっても、特に処置、治療を要しないものから命に関わるものまで様々な種類があります。以下に代表的な例を示します。

心房細動、心房粗動▼心臓の部屋のうち、上の心房と呼ばれる部分で電気信号が乱れ、心房が正常に収縮しなくなる不整脈の一つです。動悸の原因となったり、心不全や心房内に血栓ができやすくなり脳梗塞などを起こすことがあるので、症状が軽くても検査、治療が必要です。

期外収縮▼心臓内で、正常とは違う部位から電気信号が作られ脈ができるものです。症状や心臓病があるかなどによつては処置が必要な場合もあります。

洞不全症候群▼洞結節の働きが悪くなり、十分に脈ができなくなる状態です。脈が遅くなりすぎたり、十分でない場合、失神や心不全の原因となり、治療が必要です。

房室ブロック▼心房から心室へ電気信号が伝わらなくなる状態です。

号が伝わらなくなり、脈ができなくなったり遅くなる状態です。ブロックの程度により失神や心停止、心不全となることがあるので、検査、治療が必要です。

心室頻拍、心室細動▼心室で異常な脈が生じ、心臓がけいれん状態またはそれに近い状態となる不整脈で、心停止と同じ状態になります。適切な治療が迅速に行われなければ死に至る危険な不整脈です。

今回は不整脈の症状、診断、治療について解説します。ご期待ください。



監修

総合大雄会病院 副院長

寺沢 彰浩 医師

てらさわ あきひろ

〈主な資格〉

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医